

りとした将来につなげていく、また、にぎわいに将来の持続あるまちにしていかなくちやいけない
ということを考えてときに、やはり内面と外面とソフト・ハード、そういったものが、やはりしっ
かりとしていかなくちやいけないだろうという考えで、今、捉えております。そういう中で、いま
一度、もう一度、やはりその辺をしっかりしながら取り組んでいきたいなど。

そして、私は特に、皆様方をお願いをしておきたいと思うのは、この、誰がそれをしっかりと
取り組んでいっていただけるのかという、やはりそこで活躍する、活動する人たちが、やはり明確
になるようなものにしていきたいと考えておるわけでごさいます、それもあわせて、極端な言
い方をすれば、ソフトをメインにしながらハードがあるべきではないかなと考えておる次第でごさ
いますし、そして、糸魚川らしいまちにしていくな中で、取り組んでまいりたいと思っております。

そういったことで、私は、拠点については、そんな形で取り組んでいきたい、そして、皆さんに
喜んでいただけるようなまちにしていきたいと思っておりますので、また、皆さんからのご理解・
ご支援をいただきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

米田市長、ありがとうございました。

以上で、私の一般質問を終わります。

○議長（五十嵐健一郎君）

以上で、東野議員の質問が終わりました。

関連質問なしと認めます。

暫時休憩します。

再開を11時5分といたします。

〈午前10時53分 休憩〉

〈午前11時05分 開議〉

○議長（五十嵐健一郎君）

休憩を解き会議を再開いたします。

次に、田中立一議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田中議員。〔15番 田中立一君登壇〕

○15番（田中立一君）

市民ネット21、田中です。

発言通告に基づいて一般質問をさせていただきますけれども、その前に、本日朝8時ごろ、大阪
で震度6弱の大きな地震がございました。被害に遭われた方には、心よりお見舞い申し上げますと

ともに、本日、私の質問項目の中にペットの避難がありますが、あらかじめ申し上げておきますけれども、災害時におきましては人命第一が基本であり、このことについて、前もって皆様方にご理解いただきますようお願いして、これから質問をさせていただきます。

1、糸魚川駅駐車場について。

ヒスイ王国館の駐車場は172台、駅アルプス口（南口）の駐車場は118台駐車可能とあります。北陸新幹線と糸魚川駅の利用促進及び利便性の向上を図り、新幹線利用者は最大4日間（96時間）まで無料になっており、利用者から喜ばれている。

開業して3年たち認知され、利用者がふえているのか、土・日や連休などになると空車が少なくなり、時には満車も見られる。特に、5月の連休では、南口駐車場が満車で、急ぎヒスイ王国館へ回ったり、臨時の駐車場に駆け込んだ話も聞く。また、その逆のパターンやイベント開催時でも同様であり、今後の対応が求められるが考えを伺う。

(1) ことし2月には在来線利用者に無料駐車の実験が行われた。在来線利用者にも無料駐車を広げてほしいが、その結果と今後についての考えはどうか。

(2) 駐車場の空き情報を、例えばスマホやパソコンで事前に確認できるように検討すべきと思うがどうか。また、満車時の対応についてはどのように考えるか。

2、災害時におけるペットの避難について。

ペットブームと言われるが、犬や猫を飼われている方が非常に多いようで、私の家の近所、友人・知人にも、飼っている方がたくさんいる。この議場内にも、家で犬か猫を飼われている方、何人かおられるのではないかと。

平成28年6月定例会の一般質問でも、動物愛護について取り上げ、避難についても、若干、触れました。今回は、その2回目となるが、この間において、28年に駅北大火、昨年は大雨による水害など災害が発生し、避難勧告が発令された。

大切な家族の一員であるペットを、災害発生時には連れて避難したいと飼い主が思う気持ちは理解できるが、市では避難場所や避難所での対応をどのように考えているか。環境省ではガイドラインを作成し、県でも愛玩動物の保護対策を定めているが、市では飼い主への周知やマナーなどへの理解・協力をどのように進めているか。

3、小規模農林業の支援について。

2018年度の農林水産省の予算は、前年度に比べ50億円の減となった。特徴的なのは、公共事業費が増額され、非公共事業費の食料安定供給関係費が250億円減額されていることである。

予算の基本的な考えとして、強い農林水産業の実現、みずから経営判断してつくる農業への変革を支援、水田活用の直接支払交付金や収入保険制度を措置、農地の大区画化や畑地化による競争力の強化、林業の成長を産業化、農泊やジビエの利活用などの農山漁村の活性化支援、農林水産物・食品の輸出力強化をポイントに挙げている。納得のできる面もあるが、農地利用を集積する構造政策・産業政策に偏っているようにも見受け、糸魚川市にとってはどうか。

糸魚川市は中山間地が多く、国が進める農地の集積・大規模化による効率化、競争力強化はなじまない。市内農家のほとんどは兼業の小規模農家であり、地域農業を担っているが、高齢化・人口減少が進み、集積されず残った条件不利地から耕作放棄地が拡大しているほか、山林も同様で、管理が十分でないだけでなく、所有者の不明や不在も多く見受けられる。

農地や山林は、地域の自然環境保全、土砂災害防止、水源涵養、有害鳥獣増加防止など、多くの多面的機能を有していることから、持続的な管理が求められるが、当市の現状と考えを伺う。

- (1) 農地・山林の所有者不明土地の現状はどうか。
- (2) 中山間地の小規模農業（家族農業）は上記の多面的機能の保持に加え、景観の維持、文化の伝承など多様な役割を担っているが、その存続が難しくなっている。日本は、農業の大規模化・効率化など構造改革を進めているが、世界の農家の9割、食料生産の8割は小規模（家族農業）が担っているとわれ、食料安全保障の基盤となっている。

国連は、2014年を国際家族農業年と定め、さらに2030年までの国際目標であるSDG_s持続可能な開発目標では、貧困や飢餓の撲滅が掲げられていることから、目標達成に向かう上で、家族農業という持続性のある農業形態は、特に注目されている。昨年12月の国連総会で、2019年から2028年を家族農業の10年と決めたように、世界の潮流は家族農業に注目し、家族農業の重要性を改めて見直している。

このように、地域を守る小規模農業の存在は重要であり、維持存続のために、さらなる支援が必要と考えるが、市では現状をどう捉え支援をどう考えるか。

- (3) 来年から施行される森林環境税・譲与税は、市町村に森林整備の新たな責任を求めることになると思うが、市ではどう捉え、また施行後は全国でおよそ600億円と言われている譲与について、糸魚川市への試算と活用について、考えはどうか。

4、北前船について。

先月、5月27日、中国・大連市で第23回北前船寄港地フォーラム in 大連が開かれた。初めて海を越えての開催ということで大変話題になり、地域間交流拡大に期待がかかっている。同フォーラムは、作家で酒田市美術館長（当時は秋田公立美術工芸短期大学長）でありました石川好氏が提唱した「北前船コリドール構想」に基づいて、2007年11月に酒田市で第1回を開催して以来、規模を拡大しながら全国の寄港地で開催している。昨年8月にはJR各社、日本航空、ANA総合研究所などで一般社団法人北前船交流拡大機構を設立、地域間交流の促進で地域活性化を図る体制を強化した。大連のフォーラムには、新潟県内からも副知事を初め新潟市、長岡市、佐渡市、上越市が出席し、来年は新潟市で開催することが決まった。来年は、新潟港開港150年の節目の年でもあり、世間も注目し盛り上がるのではないかと思われる。糸魚川市内にも北前船寄港地として栄えた歴史・文化が残されているが、その活用について考えを伺う。

- (1) 日本遺産「荒波を超えた男たちの夢が紡いだ異空間～北前船寄港地・船主集落～」に上越市を初め27自治体が追加認定された。地域の歴史的魅力や特色を通じて、我が国の文化・伝統を語るストーリーを文化庁が認定する日本遺産は、有形や無形のさまざまな文化財を、地域が主体となって総合的に整理・活用し、国内だけでなく海外へも戦略的に発信していくことにより、地域の活性化を図ることを目的としている同遺産への参加検討はどうか。
- (2) 寄港地フォーラムへの参加検討はどうか。
- (3) 現代の北前船と言われるクルーズ船、寄港地誘客が各地で盛んだが、姫川港の可能性についての検討はどうか。

以上、1回目の質問です。よろしく申し上げます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

田中議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、28年度と29年度に実施いたしましたが、利用者増加の傾向は見られませんでした。今後については、実施方法や期間等を再考し、検証を継続していきたいと考えております。

2点目につきましては、現状の設備では、あき情報を配信することができませんが、導入費用や管理経費、利用者の利便性を勘案し、検討したいと考えております。なお、イベントなど、満車が予想されるときには、臨時駐車場を設置し対応したいと考えております。

2番目につきましては、地域防災計画に基づき県や関係機関と連携をし、市民がペットと一緒に避難することができるよう配慮をいたしております。また、飼い主へは、予防注射などの際に、しつけや災害時にペットが迷子にならないよう、名札の着用についてお願いをいたしております。

3番目の1点目につきましては、農地台帳で約14%、森林簿で約10%が未相続による所有者不明と推測いたしております。

2点目につきましては、小規模農家の存在は重要と認識いたしており、高齢化に伴い多面的機能や集落機能の低下が懸念されることから、農業や中山間地域の振興に努めてまいります。

3点目につきましては、関係者と連携をしながら、今国会で成立いたした森林経営管理法の運用による森林整備のほか、担い手確保、木材利用の促進や普及啓発に活用し、環境保全及び森林資源の活用に努めてまいります。なお、31年度の譲与税は、県の試算で1,500万円ほどと見込んでおります。

4番目の1点目につきましては、市内にあります北前船関連資料の大半は、個人や神社の所有であり、その適切な公開・活用が可能であるかどうか協議・検討した上で、判断をしております。

2点目につきましては、情報収集や情報交換のため、近隣の開催されるフォーラムへの参加を考えております。

3点目につきましては、現状では困難な状況であります。姫川港の多目的利用の1つとして、可能性について検討してまいります。

以上、ご質問にお答えいたしましたが、再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますのでよろしくお願い申し上げます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

では、1番目の質問を再質問させていただきます。

特に、利用者の増加の傾向が見られなかったという答弁でありましたけれども、このことをやったことによって、駐車場のその利用者の変化というものについては、どうだったでしょうか。利用者の数等の把握というのはされているのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答えをいたします。

無償化の実験をしている期間内に、私どもで、鉄道の乗降人数と一緒に、あわせて駐車場の稼働率というものを計算しております。また、後に、このシステムのほうから排出されるほうのデータを使いまして、駐車場の稼働率というものも得ております。

ただ、まずは今回の在来線の無償化を使って在来線に乗っていただいた、駐車場をご利用いただいた方というのが数的に、ちょっと余りにも少ないという結果が出ております。全体に対しては本当に、その期間の駐車場の全体の2%とかそれくらいの割合でございます。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

非常に少なかったわけですが、これについての検証、何でこんなに少なかったのか、周知の仕方を含めて、どのように捉えていますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答えをいたします。

この2月に行った実験は、実験自体は2回目でございます。28年度の11月に、実験を行いました。前回、今回とも、周知に関しましては、広報、ホームページ、えちごトキめき鉄道のホームページ等に掲載したりですとか、市役所ですとか駅にチラシを置いたり、青海、能生、糸魚川、あと両駐車場に、こういう実験をやりますというようなポスターを掲示したりというような周知には努めたんですけど、なかなか利用実態、鉄道の利用実態には反映できなかったと。

ただ、あわせて一緒に、そういう無償化を使っていた方からアンケートをいただいております。そのアンケートの設問の中に、この在来線の駐車場の無料化を継続した場合に、どのくらいの頻度で、どれくらい鉄道を使っていたかという設問に対して、約5割の方から、週に一、二回からほぼ毎日利用したいという回答をいただいておりますので、先ほど、数は多くないと申しましたが、一定のそれなりのニーズはあるというふうに考えておりますので、今後、実施する時期、1回目は11月、前回は冬の2月ということなんですけど、それらの設定ですとか、あとは平日・休日の利用状況等を調べながら、その辺の工夫をしながら、もう少しこういう調べるってことは必要なかなということを考えております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

+

田中議員。

○15番（田中立一君）

この、やはり無料駐車場のニーズというのは、私、潜在的にかもしれないけど多いんじゃないかなと思って、ぜひ、これを広げていってもらいたいなと思っているところであります。

11月と2月という時期がよかったのか、あるいは1カ月という期間がよかったのか、いろいろ検証するところがあるんじゃないかなと思います。新幹線、前は在来線のJRのほうになるんでしょうけれども、駐車場利用者には無料のスペースもあったりもして、それなりに、結構、頻度があったなというふうに、私は見ていました。

ぜひ、これ続けてやって、何とか形になるようにしてもらいたいなと思うことを要望させてもらいますし、新幹線の利用者も4日間無料なんですけれども、この3年間の間で、こういったことの利用によって、駐車場の稼働っていうのは上がってきているのかどうか、その辺のデータというのは持ち合わせていますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答え申し上げます。

アルプス口、日本海口のそれぞれの駐車場につきましては、新幹線の開業年から昨年度まで、駐車場の利用台数自体は、年々減少傾向でございます。ただ、新幹線割引を使って、その駐車場を利用されている方の割合ということが、そちらのほうは今度、増加傾向でございます。ということは、見方としましては、ヒスイ王国館のところの駐車場とアルプス口のところの駐車場の、新幹線の96時間は無料だよということは、ある程度、少しずつ広まってきてるのではないかなというふうに捉えております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

減ってきてるとというのは、意外な話でした。

でも、新幹線の利用者の4日間までの無料というのは、認知されて広まってきているというふうに捉えているということでもありますけれども、やはりこの制度はありがたいなと。やはり、休みの日なんかは、かなり満車の日が見られるようになったというふうに、私は感じているんですけれども、こういう日があたりすると、どちらのほうの駐車場に車を持っていこうかと、事前に迷うわけですね。もしも、南口がいっぱいだったら北口のほうに回るといって、かなりの時間のロスになって慌ててしまうと。そういうこと、私も経験もしてますし、また、いろんな話も聞いたり、SNSも見たりもするんですけども、その辺については、市はどう認識していますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答え申し上げます。

議員ご指摘のように、特に、休日を中心にして、日中から夕方にかけてアルプス口の駐車場、南口の駐車場が混雑、時には満車という状態が、多々、見られます。実際に、建設課のほうにも、南口にとめようと思ったら満員で、電車におくれそうになったんで路上駐車してしまうぞというような、半分苦情、半分言いわけのようなお電話をいただいたこともございます。

ただ、その間も、ヒスイ王国館のほうの駐車場というのが満車になるということが、通常時ですと、平日・休日ともに通常時ですと、今まででも大体、私どもの計測でも八十四、五%とかそれくらいの稼働率でございます。イベント等やるとこれは別の話なんですけど、そういうことから、いかにアルプス口のほうから北口のほうにスムーズに、誘導するのではなくて、最初から北口を目指せるかとか、例えば、きょう、私こういうように説明しておる、比較的、アルプス口はすぐ満員になりますけど、北口はあいてることが多いですよというようなことを、もう、あらかじめ皆さんにお知らせするというようなことも必要なのかなというふうに考えております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

1回目の答弁で、今後、事前にあき情報をできるかどうか検討する云々の話が、答弁がございました。ぜひ、これ、あいてますよと、ヒスイ王国館にあいてますよとかっていうことも、大事なかもしれませんが、やはり事前に情報を流せるようなシステムというのは、もう、始めなければいけないんじゃないかなと思います。

例えば上越妙高駅は、市営の駐車場に関しては、あき情報を10分ごとに更新しています。それは、ご存じかと思います。それで、そういったこと、あるいはほかに方法があるかどうか、そういったのを検討というのはいかがなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答えを申し上げます。

事前にスマホ等で、駐車場の情報を得るということができる、最初からそこを目指せられるということになりますので、それがある程度、理想的な目指すところなんだろうというふうには考えられます。そのためには、今の王国館の駐車場とアルプス口の駐車場を、それぞれ通信等で結んだり、それをウェブのほうに配信するというような、そういう仕組みが必要でございます。

今の設備に何かを加えてできるのか、かなりヒスイ王国館のほうの駐車場と、私どもの駐車場のアルプス口の駐車場の整備の年次も違いますので、その辺、単純に通信等の連携等だけでいけるのか、それに、それを実現するためには、本当にお幾らかかるのかということにつきましては、今

後、前向きに市長の答弁にもございましたので、前向きに検討をさせていただきたいというふうに考えております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

よろしく申し上げます。

満車時の対応なんですけれども、例えばこの連休を見て、南口に1カ所設けられましたけれども、ちょっと問い合わせが市役所になっていたり、看板のあれが薄くなっていたり、また、4日間の新幹線利用者の料金適用ができるのか、無料なのか、いろいろ心配になって置いたって話も聞くわけなんですけれども、その辺について、問い合わせが市役所ということで、どのようなものがありましたでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

大沢財政課長。〔財政課長 大沢喜昭君登壇〕

○財政課長（大沢喜昭君）

お答えいたします。

今回、中央区のほうの旧JRの宿舎跡地を普通財産として購入をいたしまして、その空き地を、今回急遽、連休の期間、駐車場として提供をさせていただきました。4日間無料になるように、4月28日の土曜日から5月10日の木曜日までの間、最後のお休みの日から4日間まで開放いたしまして、無料ですということで看板を何カ所かに設けまして、ご利用いただきました。お休みの間、連休の間、毎日、私も見にいっておりましたけれども、一番多いときで30台くらいとまっていたかなと思います。実験的に、今回、してみましたけれども、今後もまた、お盆ですとか期間が長い期間に、ぜひ、またこういったものを、あいている場所を有効に活用していただくように利用促進していきたいと思っておりますが、特に、市役所のほうに苦情とか連絡というのは、頂戴はしておりませんでした。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

もう一つ、検討してもらったらどうかと思うのが、新高岡駅の取り組みなんですけれども、予約駐車というものがあります。県外の新幹線利用者に限って、予約専用の駐車場を設置して、新幹線と新高岡駅の利用促進を図っているということで、有料なんですけれども、そういう情報、また、糸魚川駅での予約駐車導入の検討っていうのはできるもんなんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

今ほどご指摘いただきました新高岡の駐車場予約制度ということに関しては、大変申しわけございません、勉強不足で、私、承知しておりませんでした。

今回の北陸新幹線の関係でも、駐車場のところについて、我々は双方の連絡という観点だけでしたけど、遠方の方が来てとめる、私どものアルプス口の駐車場に小谷・白馬の皆さんたちの駐車枠、このスペースですよということもやっておりますんで、そういう遠方の方の予約制度ということに関しても、もう少し研究をしなければならないというふうには感じております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

私も、今回のことでいろいろ調べてるうちに、ネットでこれを見つけたわけなんですけれども、駅の利用者にとっては道路事情などによって、必ずしも時間に余裕があるわけではないので、事前にそういう情報があるとか、あるいは必ず車をとめられるという安心感というものが必要なんじゃないかなと、今、幾つかお話しさせてもらいましたけれども、ぜひ、前向きに検討していただいて、空き情報と十分な駐車数の確保というものを、これからもお願いしたいと思います。よろしく願いいたします。

続いて、2番目の災害時におけるペットの避難についてであります。

環境省が出しました東日本大震災を受けてのガイドブック、これは市のほうにももちろん出てますし、ごらんになってるかと思えます。このガイドラインには、飼い主がペットを連れて避難できずに後悔していること、あるいは日ごろからワクチン接種やしつけをしていなかった飼い主の存在、そういったものが問題となった、そういったことを踏まえた上でのガイドラインの作成と。

このガイドラインでは、同伴避難ではなくって、同行避難を推奨して呼びかけておりますけれども、飼い主の中には、この同行と同伴の区別がつかない、それによって、いざというときに混乱が生じているというふうに見受けるわけなんですけれども、何で同行避難を呼びかけ、同伴避難との違いは何か、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

五十嵐環境生活課長。〔環境生活課長 五十嵐久英君登壇〕

○環境生活課長（五十嵐久英君）

大変申しわけございません。同行、同伴についても、ちょっと私、よく承知しておりませんが、基本は、とにかくペットにずっと一緒に避難所においても、一緒にいれるかどうかという部分が必要に、飼い主にとっては重要なことなのかなというふうに考えています。そういう部分では、とにかく一緒に場所に飼い主がおれるような形を、今後とも、市としては対応してまいりたいというふうには考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

避難所には、いろんな方がおられる中で、飼い主としてはペットと一緒に同じ空間におれるのが一番いいんでしょうけれども、まずは、放浪動物や何かが出ないようにするために、同行をするというふうに思います。同じ部屋の中に入れると、それはまたそれで、いろんな問題があるわけですよ。それで、それを飼い主が勘違いしてやってしまうと。単純にいうとそういったことで、また調べておいていただきたいと思います。

糸魚川においては大きな大火、あるいは水害がありましたけれども、その対応において、どのぐらいの方がペットを連れて同行されて避難をしたか、その辺は把握されてますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

五十嵐環境生活課長。〔環境生活課長 五十嵐久英君登壇〕

○環境生活課長（五十嵐久英君）

糸魚川の駅北大火においては、市民会館のほうが一次避難所ということになりましたけども、そこには犬3頭、猫2頭が一時的に避難をしてきたというところでございます。その場において、県のほうからゲージ等を用意していただいて対応したというところでございます。

なお、そのうち犬1頭については二次避難所ということで、ホワイトクリフのほうが二次避難所となっておったんでございますけども、施設のほうのご理解を得て、同じ部屋にゲージの中ですけども、同じ部屋で避難をしたというような状況となっております。

また、去年の能生の豪雨災害のときについては、海洋高校のほうは避難したペットはございませんでした。能生小学校のほうについては、2家族で犬4頭の避難というものがございました。1頭の方については、やはり周りの方に少し迷惑なのかなということで、じゃ、少し散歩してくるわということで、避難所の周りを散歩してたという状況でございますし、もう3頭の方については、やはり犬が、人が多いところにいるとおびえるということでございましたので、避難者とペットが玄関の近くで避難をしていたという状況でございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

先ほどの答弁で、地域防災計画、それによって配慮をして避難するようにしているというような答弁でした。配慮してってということで、私もいろいろ調べてみたりしたところ、避難所においては、やはりさっき言ったように同行避難を推奨するに当たり、その中には、一時ペットの預かり場所というものをもうけなければいけない、そのように明記されているわけなんですよね。今のお話聞いてると、そういったものはなかったのかなと。いろいろ飼い主のほうに気を過ぎるぐらいに使ってると、その辺の対応は、いかがだったんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

五十嵐環境生活課長。〔環境生活課長 五十嵐久英君登壇〕

○環境生活課長（五十嵐久英君）

駅北大火、また、能生の水害の両方の場合においても、まずは、当課の職員が避難所のほうへ行きまして、飼い主の方の、まず、どういう要望なりご希望があるのかということをお伺いしながら、そして、それと同時に県のほうと連絡をとって、県のほうで一次避難所等が保健所内等のできるかどうかも含めて、そういう情報、相互をしながらそれぞれの避難所で対応をとっているというような状況でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

先ほど数を伺ったわけなんですけれども、多くの方が避難して、今のこのペットブームの中において、たったそれだけで、本当はないんじゃないかと。もっと多くの方がペットを飼われているんじゃないかなと思うわけです。多くの方が、どういう事情で避難所に連れてこなかったか、来れなかったのか、その辺のことについてはどのように認識しているのかどうか。

今度、避難された家族の方たちなんかには、いろんな避難名簿とか、あるいは台帳のようなものを作成すると思うんですけれども、その家族の中に、ペットを飼っているか、あるかないかという調べていいでしょうか、把握の仕方というものも大事なと思うんですけれども、そういったことをされたかどうか、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

五十嵐環境生活課長。〔環境生活課長 五十嵐久英君登壇〕

○環境生活課長（五十嵐久英君）

やはり、避難所において、多くのペットが避難してくるという場合の対応については、まだまだ対応が不十分なところもありますし、体制も不十分なところとかあるというふうに認識はしております。

それと、避難所に避難した方が、どのようなペットを飼っているかというような情報を、台帳として作成したというふうなことについては、今までのところはやったことはございません。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

かなりの自治体では、こういう台帳があるわけなんですけれども、これもファイルしていくんでしょうけども、この中に、今、ペットの欄も設けて、ペットを飼っている飼っていないっていうものを、一緒に把握できるようにしている。これは、持ってきたのは岩手県の例なんですけれども、他の県や、あるいは自治体でもたくさん実践されている。こういうものがあると、じゃ、そのペットが今、どういう状態になってるか、後から放浪になって、行方不明になって探したりするのは、

大変な労力とお金がかかりますし、また、そういったことによってペットが弱ったりとか、あるいは人に危害を与えるとか、そういったことの心配というものがあるわけなんですけれども、そういったことに対する抑制といたしましうか、処置にもなっていくわけなので、こういったことを参考にしてもらいたいと思いますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

五十嵐環境生活課長。〔環境生活課長 五十嵐久英君登壇〕

○環境生活課長（五十嵐久英君）

議員おっしゃるように、そういう人間とともにペットがどのような、その避難区域内にいるかというような情報収集も、非常に重要なことかというふうに思っております。今後とも、どのような形でやるのが一番いいか等を含めて、研究してまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

それから、災害時のペットの避難っていうのは、ふだんからのこういったことに、災害に対する備えというものが大事で、これは人間の避難と同じでありますし、なんですけれども、そのためには、共同生活をしている人の中には、動物、ペットが好きじゃないという方、苦手な方、あるいは病気の方、それから動物のにおい・鳴き声が体調を崩されるとかそういったことがあるんですけど、大半の場合はふだんのしつけや、飼い主のそういった備えによってできるわけなんです。

最初の答弁で、そういったことについては狂犬病の予防接種等において対応しているという話なんですけれども、狂犬病は犬ですね。猫とかいろんな動物・小動物もあるわけなんですけれども、それらについての対応は、どのようにされているかどうか。また、予防接種以外のそういったしつけというものを、具体的にどのようにされているのかどうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

五十嵐環境生活課長。〔環境生活課長 五十嵐久英君登壇〕

○環境生活課長（五十嵐久英君）

犬のほうは、先ほど市長の答弁で申し上げたとおり、狂犬病の予防接種のときに接触する機会がございますので、しつけをしましょうとかというパンフレットとか、名札をつけましょうというこのようなグッズを、来た方に配布したり、持っていってもらったりというようなことをしております。

今、後段、議員おっしゃられたように、犬以外については、なかなか私らのほうと飼い主の接点がないということで、今、ようやく獣医さんのほうのご協力をいただいて、環境省でつくった防災対策のパンフレット等を、また置いていただいて、そこへ来た人に見ていただくようなことをやり始めたというような状況でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

防災対策のパンフレット、私もこれ環境省の、恐らく年度によって、若干、表紙やら何やらが違うんじゃないかと思うんですけども、これ見ると、概要としてかなりわかりやすく説明されています。

今、狂犬病のときとかおっしゃったんですけども、例えば総合防災訓練だとか自主防災組織とか、そういったものがあるわけですけども、そういったあらゆる機会の中に、こういうものを配る、あるいはこういう話をする、何かそういったことによって、広められるんじゃないかな、少しでもその辺の普及が図れるんじゃないかなと。積極的にそれをしないと、いつまでもこれは広まらないんじゃないかと思いますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

五十嵐環境生活課長。〔環境生活課長 五十嵐久英君登壇〕

○環境生活課長（五十嵐久英君）

今、議員おっしゃられたような機会も含めて、ペットを飼って、災害時にどうするかという部分についての飼い主への啓発というかそういうものについては、今後、あらゆる機会を捉えながらやっていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

もう1点、先ほど名札という話がありましたけれども、今、マイクロチップを普及促進していますが、マイクロチップは、今、市としては普及については何か取り組みされていますか。

それから、狂犬病以外にいろんなワクチンが必要になって接種をしてるんですけども、それぞれ、犬・猫においての各種ワクチンという接種は、どのような状況かはわかりますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

五十嵐環境生活課長。〔環境生活課長 五十嵐久英君登壇〕

○環境生活課長（五十嵐久英君）

マイクロチップのほうは、マイクロチップということに特化してなくて、名札の着用、またはマイクロチップの着用等お願いしますということで、まだまだマイクロチップに特化したというような啓発は行っておりません。

それと、狂犬病予防以外のペットに対するワクチンの奨励なり現状の把握については、市のほうではちょっと、いたしておりません。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

+

マイクロチップにつきましては、名札、あるいは首輪だけだと、災害時に外れてしまったりしてわからなくなってしまうということがあるから、あわせてやったらいいというふうに啓発してるかと思うんですけども、各種ワクチンについては、確かに保健所等の関係のほうがあるのかなと思うんですけども、やはりいざというときには、いろんな病気に対応した処置というものが必要になってきますので、機会は捉えてやっていただければと思います。どこまで、基礎自治体のほうでできるかというものがありますけれども、捉えながらやっていただければと思います。

これは、避難所の開設・運営についてで、上越市のものを持ってきました。上越市においては、避難所の開設・運営のマニュアル、避難所の対応編、それから資料編というものをつくって、例えばペットにおいては衛生班というものがあって、これをこのようにやってるとか、また、こっちの資料編においては、例えば体育館においては、こういったところにペットスペースを設けたらどうかとかというのを、マニュアルとして載っているんですけども、まず、糸魚川市としてはこういう避難所を開設・運営するマニュアルはお持ちかどうか、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

小林市民課長。〔市民課長 小林正広君登壇〕

○市民課長（小林正広君）

お答えいたします。

糸魚川市では、市民課のほうで避難所開設に当たっての担当をしておりますが、マニュアル等につきましては、順次、つくっておるところでございます。各学校等の避難所となる施設、そこで避難所となった場合に、どんなふうに受け入れをするのか、あるいはどこに受け付け場所をつくるのか、そしてどこにペット等を、何ていうんですか、ゲージを置いたほうがいいのか、そういったところもあわせて施設ごとに、今、つくっておる最中でございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

じゃ、間もなくできると。その中には、そういうペットの一時保管等について入れていくということですね。よろしくお願ひしたいと思います。

人とペットの災害対策ガイドラインという、この環境省の資料をもとに、今回、質問させてもらいましたけれども、災害時のペット対策の基本は、飼い主の責任によるペットの飼養管理、飼う養う管理ですけれども、飼養環境の整備などを通じて支援が、この支援が行政に求められていると。

ペットを連れた被災者が必要とする支援を自治体が担うことは、ペットの飼い主の早期自立を支援することであり、ペットの健康と安全に寄与する。同時に、ペットを飼養しない多くの被災者とのトラブルを最小化させ、全ての被災者の生活環境の保全を図ることになると、このようにガイドラインには書かれています。そういったことを参考にやっていただきたいと思いますが、今朝も、冒頭申し上げましたように地震がありました。災害、いつ何時、どんな形でやってくるかわかりませんが、まだまだ、ペットについてはこれからと言いましょうか、地域全体のコンセ

ンサスも含めて図っていかなければいけないんじゃないかなと思いますので、広報による飼い主へのしつけだとかマナー教育、不妊去勢の推進、あるいはさっきのマニュアルの作成、そういったものを取り組んでいただけたらと思います。要望とさせていただきます。

次に、小規模農林業の支援でありますけれども、最初の答弁は、これ面積ベースでの数字かなと思うんですけれども、面積としてはどんな数字になるのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

池田農林水産課長。〔農林水産課長 池田 隆君登壇〕

○農林水産課長（池田 隆君）

農地における未相続等の所有者不明農地につきましては、台帳面積約2,300ヘクタールのうち320ヘクタールというふうに推計をしております。また、森林につきましては6万4,600ヘクタールのうち6,430ヘクタールというふうに推計をさせていただいております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

非常に、意外と大きい数字だなと。320それから6,000。これって、やはり感覚としては最近伸びてきているというか、ふえてきてるんじゃないかなと思うんですけれども、その辺の傾向というのは把握されてますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

池田農林水産課長。〔農林水産課長 池田 隆君登壇〕

○農林水産課長（池田 隆君）

所有者不明農地または森林の推移については、正直、正確には把握が、過去の推移については把握をしておりますけれども、人口の流出でありますとか農林業離れなどに伴って増加してきたものというふうに考えております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

その中で、耕作放棄地はかなり同じようにふえてきてると思いますけれども、第2次糸魚川市農村環境計画、経営耕地面積は平成7年には2,294ヘクタールだったが、平成27年には1,463ヘクタールまで減少している。しかし、ここ10年間、経営耕地は大きく減少していない。担い手農家への農地集積が進んだことや、日本型直接支払に取り組んでいることが影響しているものと書いてありますけれども、18年度から17年度の総額714億円だった米の直接支払交付金が廃止になりました。一方で、水田活用の直接支払交付金は3,304億円、17年度対比の154億円の増、畑作物の直接支払交付金は115億円の増、収入保険制度の260億円の増とあ

りましたけれども、このような直接支払交付金の減額分と比べると計算が合わないわけです。当市においても、この今まで田んぼを荒らさず、先祖からの土地を守るのに精いっぱいだった、そういう農家が多かったわけなんですけれども、今後の生産調整、米の直接支払交付金の廃止、これらの影響というのは、耕作放棄地のまた拍車がかかるんじゃないか、その辺についてはどう捉えて、また、何か対策を考えられるのか、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

池田農林水産課長。〔農林水産課長 池田 隆君登壇〕

○農林水産課長（池田 隆君）

国による生産調整でありますとか交付金の廃止に伴い、経営にとっては厳しいという声を多く聞いております。しかしながら、今のところそれを理由に離農までという話は、余りお聞きしておりません。むしろ圃場でありますとか生産基盤の未整備、それから急傾斜地、こういう耕作条件の厳しい農地から耕作放棄が進んでないかなというふうに考えております。したがって、圃場整備でありますとか、その生産基盤の整備、また、担い手の確保、こういうものを進めるのが、まず先決でないかなというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

一方で農地の集積状況でありますけれども、糸魚川は農地の集積が、県全体の平均から比べておこなっているんじゃないかと。特に、地域的なことをいいますと、能生地域の集積が進んでいないというふうにも聞くんですけども、それは本当かどうか。もし、本当とすると、その原因は何と捉えていますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

池田農林水産課長。〔農林水産課長 池田 隆君登壇〕

○農林水産課長（池田 隆君）

今、議員ご指摘のように、糸魚川市におきましては、国でありますとか県と比べて、集積の状況というのは低い状況であります。ちょっと数字は違いますが、人・農地プランの中心的経営体の集積率っていうのが、市全体ですと39.6%というふうになっております。

原因として考えられますのが、集落営農が進んでいない、それから耕作条件の厳しい農地が多い、それから経営面積の拡大が他と比べて不利なことありますとか、兼業農家が多いことなどが挙げられます。

能生地域につきましては、同様集積率が約26.8%という数字を示しております、市全体と比較すると13ポイント低い状況となっております。特に、能生地域については、法人等の大規模経営の担い手が少ないのが、1つの要因であるというふうに考えております。

しかし、その一方では、その担い手への集積率が低いということ、これについては一人一人農家の方々が、農業、それから農地を大切に考えながら耕作を継続していただいております。

りまして、地域ぐるみで農業、それから用水等の管理をしていただいておりますものというふうを考えております。

国のほうは、集積率80%という目標を掲げておりますけれども、中山間地域の農業っていいますと、多くの方々からかかわっていただかなければ継続ができません。そんなことから、単に集積が進めばよいということではないように感じております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

新潟県が米山知事の肝いりで、公的サポートモデル事業を中山間地に適用しまして、糸魚川市も徳合地区が選ばれました。他の2地区、全部で3地区が選定されたが、これ報道等を見ると、かなり成果を上げてきているし、また、ことし新たに3地区をやると。こういったモデル、今後、まだ見ていかなきゃいけないんでしょうけれども、しっかり支援すれば、中山間地農業においても成果が得られるいい例じゃないかなと。

こういったことについて、もっと県や国に求めてもらいたいし、市としても独自の何かができればと思いますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

池田農林水産課長。〔農林水産課長 池田 隆君登壇〕

○農林水産課長（池田 隆君）

公的サポートモデル事業につきましては、ご案内のように、県が、規模拡大が困難な中山間地域における所得の補正をするという意味合いを持っておるというふうを考えております。これで、しっかり効果を上げ検証して、国に対して提案しようとする県単事業というふうに認識をしております。

当市には、先ほどありましたように、徳合地区で事業採択を受け、31年までの3カ年で取り組んでおります。まず、徳合のこのモデル事業がしっかりとした成果を上げて、そんなような支援をして、そして国でありますとか県に対して、モデル事業から通常の中山間地域対策として制度化されるように、市のほうも働きかけていきたいというふうを考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

よろしくをお願いします。

(3)でありますけれども、1,500万円の譲与税を試算されていると。これっていうのは、改めて伺いますけれども、主にどういう用途に使われていく予定なんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

池田農林水産課長。〔農林水産課長 池田 隆君登壇〕

○農林水産課長（池田 隆君）

森林環境税につきましては、市町村が行う間伐でありますとか人材育成、それから木材利用の促進と普及など、幅広い使途で検討をされておまして、所有者の意向と森林の現状把握をし、そして県でありますとか森林組合でありますとか、関係団体と協議をしながら、今後、有効な使途について検討を進めたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

農地、山林をもらっても負担という、言われる時代になって、また、一方では森林バイオマスとか合板の材料としての需要も、また増加しているという話も聞きます。これから、市町村がいろいろとまた経営管理までやっていかなければいけない話が出ているわけなんですけれども、しっかりと対策を練って取り組んでいただきたいと思います。

ちょっとあと時間がありますので、4番に入らせてもらいます。

北前船についてでありますけれども、これも2回目の質問になりますけれども、能生には白山神社のはがせ船の図絵馬とか、あるいは豪商の建物等が知られているんですけれども、市内における北前船の関連資料というものは、どんなものがありますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

磯野文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 磯野 茂君登壇〕

○教育委員会文化振興課長（磯野 茂君）

お答えいたします。

ただいま、議員おっしゃられたような白山神社の海上信仰資料のほか、鬼舞の伊藤家の家屋ですとか、大変多くの文書が残されております。また、ほかにも市内各地の各所にあります神社の石造物群が、広島尾道産の石造物群でありますので、こういったものが当市に残されている文化財群であるというふうに捉えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

上越が日本遺産のほうにも追加認定されたり、あるいは寄港地フォーラムに参加したりと、じゃ、どんなストーリーを描いてるかっていって、その材料としては、やはり神社の石灯籠だとか船絵馬とか、あと歴史的な建造物が、若干あります。そういったものを、うまくストーリーを描いてやっておられるなど。糸魚川もやはり、これ、神社や個人の所有ということで、その理解が得られることが第一なんですけれども、その辺、何かストーリーを、まず描くことができないだろうか。その辺の検討というのは、いかがなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

磯野文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 磯野 茂君登壇〕

○教育委員会文化振興課長（磯野 茂君）

ただいま申し上げました文化財の資源は残っておりますので、それらをストーリーをつくることは可能であると思ひますし、検討は進めていきたいと思っております。

他の認定の自治体と同等か、それに匹敵するような規模や内容、また、資料が残ってるだけでなく、荒海の男たちという、その北前船の認定されているストーリーと合致していることが、認定の条件というふうに聞いておりますので、そういったものも考慮に入れながら、検討してまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

来年、新潟でフォーラムが開かれる。それを、もしも近くでやるってということで参加されるっていうことになったら、やはり事前にいろんなそういったものを調べたか、あるいはその辺の調査検討をしっかりとやって、ぜひ、新潟での寄港地フォーラムには参加していただきたいと思ひます。

3番目のクルーズ船、現状、難しい。

姫川港の機能としては、クルーズ船の入港というものは可能なんでしょうか。厳しいというその課題というのは、どういったものがあるんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

姫川港につきましては、岸壁の能力ですとか水深等によりまして、接岸できる客船は、小型のクルーズ船に限られますけども、不可能ではありません。

しかし、課題といたしましては、寄港した後の人の輸送ですとか観光、食事、宿泊、その他お土産等の購入の手配等が必要でありまして、港だけの利用で、経済効果はほかの市へ流れるようでは、そういうケースも見受けられるところがございますけども、姫川港の現在の工業港としての利用だけでなく、多目的利用についての1つとして、その可能性について検討をしてまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

補足してお答えさせていただきますが、姫川港は、今、そういった状況があるわけではありますが、しかし今、整備中でございます。整備しながら、今、利用しておる港ということで、非常に整備中のいろいろの状況の中において、旅客を扱うということは、非常にお客さんに対しても、非常に危険を伴う部分がございます。そのようなことから、なかなか今、難しいというのが一番、それが一

番の大きな状況でございます。まだまだ、姫川港は整備が続くわけでございますので。そこらあたりが一番の、私は、課題かと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

はい、わかりました。

よく言う、交通の十字圏交流だとか、交通だとかという中で姫川港の位置づけは、今後、可能性としてどんなものがあるかという中で質問させていただきました。そういった課題をクリアできるものなら、また、そういったことも検討していただきたいと思って質問させていただきました。よろしくお願ひしまして、私の一般質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（五十嵐健一郎君）

以上で田中議員の質問が終わりました。

関連質問なしと認めます。

暫時休憩します。

再開を13時といたします。

（午後0時14分 休憩）

+

（午後1時00分 開議）

+

○議長（五十嵐健一郎君）

休憩を解き会議を再開いたします。

次に、山本 剛議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

山本議員。〔3番 山本 剛君登壇〕

○3番（山本 剛君）

清政クラブの山本です。発言通告書に基づいて、1回目の質問をさせていただきます。

1、市内児童・生徒のスポーツ実施状況について。

(1) 本年度で、中学校の糸魚川市内大会及び合同大会が最終年とのことであるが、その内容とこれまでの経緯、そして今後はどうなるのかをお教えてください。

(2) 中学校体育連盟主催の糸魚川市陸上競技大会も本年度で終了と聞きますが、その状況はいかがか。

(3) 少子化による競技人口の減少、チーム数の減少と思われませんが、市内中学校4校の部活動の現状をお聞かせください。

(4) 糸魚川市として、また、教育委員会としてこの現状をどう捉えているのかお伺いします。

私は青年期において、スポーツは心身を鍛えるには最も有効であり、仲間意識や感謝の心、そし